

暖房器具による火災・死亡事故が例年多発しています

タンクから漏れた灯油が引火

事例

住宅から出火し、1人が死亡した。
(2008年3月 東京都)

原因

石油ストーブを消火せずにカートリッジタンクに給油をしたところ、タンクのふた（ネジ式）の締め方が不完全であったため、本体にセットしようとした際に、漏れた灯油にストーブの火が引火したものです。



布団が触れて着火

事例

ヒーターやストーブを置いていた部屋から出火して全焼し、1人が死亡した。(2008年3月千葉県)

原因

電気ストーブを近くに置いて眠っていたため、布団がヒーター部に当たって着火したものです。

洗濯物が落下して火災

事例

住宅から出火して全焼し、1人が死亡した。(2008年2月 静岡県)

原因

電気ストーブの上で乾かしていた洗濯物が落下して着火したものです。



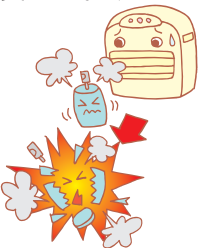
スプレー缶が爆発して引火

事例

石油ファンヒーターの前に置いていたスプレー缶（殺虫剤）が爆発し、消火の際にやけどを負った。(2011年1月 大阪府)

原因

スプレー缶がファンヒーターの温風で過熱され、内圧が上昇して破裂し、噴射剤の可燃性ガスにファンヒーターの火が引火したものです。



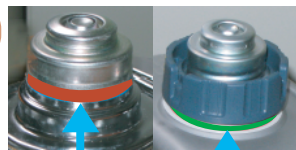
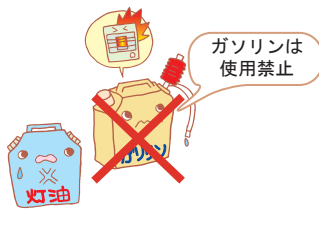
取扱説明書をよく読んで正しく使用してください

PS
C

2011年4月1日からPSCマークがない石油ストーブは販売できなくなりました。

PSCマークが付いていると…

- ・タンクのキャップが確実に締まったことが確認できる構造です。
- ・タンクを本体から引き抜くと自動的に消火します。
- ・ガソリン禁止など注意事項が多く書かれています。



線が見えなくなるまで締め確認してください。音もあ



- ・布団、カーテンや新聞紙など可燃物の近くでは使用しないでください。
- ・就寝時は使用しないでください。
- ・洗濯物や衣類等を器具の上に吊したり、乾かしたりしないでください。
- ・外出時は、電源を切って電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ・スプレー缶やカセットこんろ用ボンベを温風の当たる所に放置しないでください。
- ・温風暖房機は、温風の吹出口や吸気口をふさがないでください。
- ・ガスや石油を使う器具は、換気に注意をしてください。

一酸化炭素中毒防止のために換気は忘れずに！

就寝中に死亡

事例

就寝中、一酸化炭素中毒で1人が死亡した。
(2009年12月 千葉県)

原因

石油ストーブを閉め切った寝室で長時間使用したため、酸素が不足して不完全燃焼がおきて一酸化炭素中毒になったものです。



ものが燃えるには、たくさんの空気が必要です。そのため、換気しないと新鮮な空気が不足して不完全燃焼がおきて一酸化炭素が発生し、一酸化炭素中毒になります。一酸化炭素は、無色・無臭のため気がつきにくく中毒になると死亡することもあります。

⚠️ このマークは、取り扱いを誤った場合、重篤な被害を負うことが予想されますので注意をお願いします。

